

第3回 建築設計競技 作品集

2020年9月20日



主催 一般社団法人 実践教育訓練学会

協賛 アイディホーム株式会社(〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-46-25)

(五十音順) 株式会社 インフォマティクス(〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー27階)

株式会社 総合資格(〒163-0557 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階)

株式会社 松下産業(〒113-0033 東京都文京区本郷1-34-4)

メガソフト株式会社(〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル11階)

テーマ 「環境配慮住宅」

2020年の冬は雪が少なく、国内のスキー場の多くがオープンできないまま春を迎えようとしている。地球温暖化が徐々に進んでいることを痛感せずにはいられない。地球温暖化対策は、長く議論されているが、各国の足並みがそろわないのが現状である。地球温暖化は、石炭や石油などの化石燃料を利用するようになった18世紀の産業革命以来、大気中の二酸化炭素(CO₂)、メタンガス、フロンガスが増え続け、気温の上昇や気候の変化をもたらしている。

地球温暖化が進むと、一見冬場のエネルギーの消費量が減り、化石燃料などの資源が枯渇することを抑制することにつながりそうであるが、海面の上昇や砂漠化による食料不足、生態系の変化、健康障害など、深刻な問題を引き起こしかねない状況にある。建築生産のためのエネルギーや人々が暮らすためのエネルギー、建築物を解体するためのエネルギーなど、産業別にみても住宅・建築物分野で消費されるエネルギーが最も大きい。特に日本の住宅は、他国に比べてライフサイクルが短く、森林環境の保全にも影響を与えている。エネルギー消費を抑制するための法律を待たずに、私たち建築に携わる者ができることがあるのではないかな。

住宅における地球温暖化対策としては、エネルギーを消費しない住宅、エネルギーを逃がさない住宅、住まい方を変えることによる対応、外部と内部の環境の関わり合いによる対応、自然素材の利用方法による対応、地域のコミュニティによる対応、長寿命化による対応、さまざまである。

ここでもう一度、環境に配慮することとは何かを問い直して欲しい。「環境配慮住宅」の提案は、建築計画的な側面でも技術的な側面でも可能である。

(審査委員長)

「審査講評」

2020年2月より、日本においても新型コロナウイルス感染が広がり、ほとんどの大学では入学式が遅れ、8月になっても対面の授業ができず、オンラインでの授業を行っている中での第3回建築設計競技開催となった。そのため、例年に比べてエントリーや作品提出締め切りを1カ月延期した。そのような状況下でも、日本全国の一般大学・大学院学生、職業能力開発関係施設で学ぶ学生・受講生より心のこもった47作品の応募があった。そして、8月初旬に9名の審査委員によりオンラインでの作品審査を行った。

第3回建築設計競技は、「環境配慮住宅」をテーマにした。一言で環境と言っても何に着目するかで、コンセプトや設計の内容が大きく異なる。エネルギーを消費しない住宅、エネルギーを逃がさない住宅、住まい方、外部と内部の環境の関わり合い、自然素材の利用方法、地域のコミュニティ、建物の長寿命化など、捉え方によってさまざまな提案ができる。1等の作品、および2等の2作品は、地中での生活を提案しているのが特徴的だった。特に1等の作品については、「環境配慮住宅」を多面的に捉え、それから多くの条件設定をして解を導き、解としての空間が心地よく地上と地下でリンクしているところが、審査員に高く評価された。また、2等においても、魅力的な提案が審査員の目に留まり、受賞となった。

(審査委員長：和田 浩一)

審査委員長	和田 浩一	職業能力開発総合大学校 能力開発院 教授
審査委員	安島 才雄	株式会社 総合資格 常務執行役員
(五十音順)	飯嶋 元広	アイディホーム株式会社 生産事業部設計部門長
	磯野 重浩	九州職業能力開発大学校 建築施工システム科 教授
	井町 良明	メガソフト株式会社 代表取締役社長
	江川 嘉幸	山形県立産業技術短期大学校 建築環境システム科 教授
	高橋 基史	株式会社 インフォマティクス チーフマネージャー
	星野 政博	東北職業能力開発大学校 特任教授・実践教育訓練学会 建築・デザイン系部会長
	松下 和正	株式会社 松下産業 代表取締役社長

1等 実践教育建築デザイン賞

大地と人を開放する住居 ～小さなヒューマンエコロジー～

東北文化学園大学 瀬戸 愛音



【講評】

「大地と人を開放する住居」では、環境配慮を地域への姿勢と地球への姿勢として捉えている。地域への姿勢では「開放的な街並み」「地域のお茶の間」「緑化空間提供」、地球への姿勢では「樹木の効果」「雨水利用」「地中熱利用」であると条件設定している。これらの設計条件への解が、地下へ掘りこんだ住宅である。地上空間のみならず、地下として掘りこんだ空間も、中庭とドライエリアとしての機能を持たせ、さらに住居全体から子供を見守るスペースにもなっている。また、年間を通じて温度変化が少ないことを利用したアース

チューブや雨水を集めるタンクが地下に設置されている。このドライエリアに面している地下バルコニーがとても心地よい。さらに、地上にはゲストルームとしての最低限の建物が配置され、前庭との一体的な利用も考えられている。地上空間と地下空間とのつながりが人の行動を介して企図されている。本作品では、テーマに対してのコンセプトや条件の相互関係が適切に設定され、それぞれの要素が緑の空間を介してリンク・調和されており、その心地よさが、審査員に最も高く評価された。

2等 株式会社松下産業賞

「生きてるってなんだ!？」 -自然を引き込み住まう非日常型・環境共生住居の提案-

職業能力開発総合大学校 高木 舜典



【講評】環境配慮を「自然環境」として捉え、自然環境に身を置かせる状況をつくりだすことを提案している。自然環境に身を置き、ふれあい、「やらなければならないこと」をひとまず手放すことに気づくというアイデアである。格子状ブロックを土に埋め込むというコンセプトが魅力的である。植物と人とのかわりを地中で展開するという、植物が入ってくるころがたいへん興味深いという講評もあった。さらに言えば、横に住宅が伸びていき庭につながるというような展開が欲しかった。プレゼンテーションがよく整理されていて美しい。非日常型という環境配慮住宅のとらえ方を広げた点が高く評価された作品である。

2等 メガソフト株式会社賞

Earth ~川風を纏う土壁の家~

九州職業能力開発大学校 松坂 知宙・吉田 江梨佳・竹本 李璃・大土橋 暉

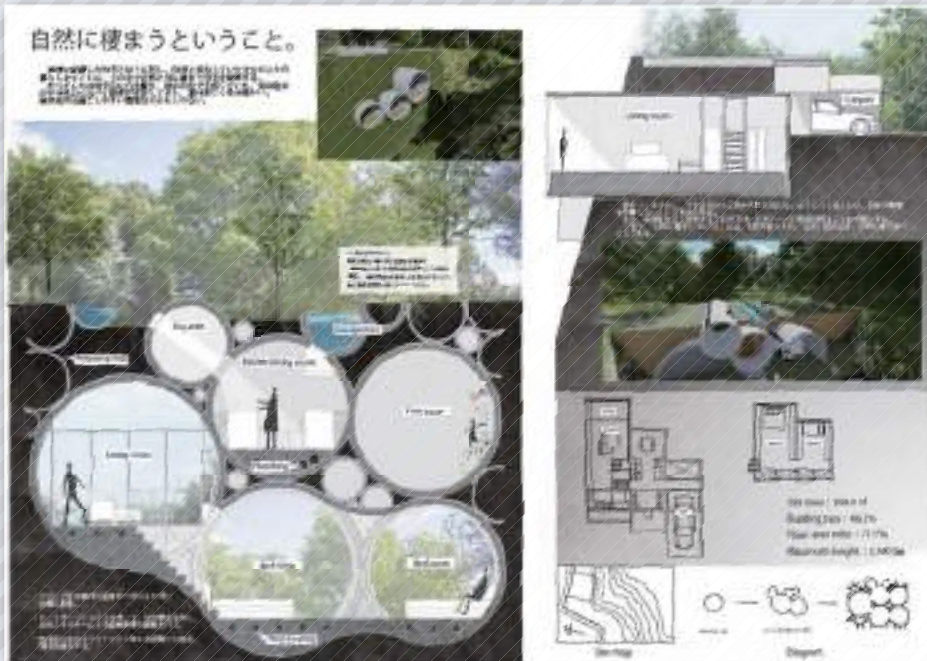


【講評】機械設備に頼らないで涼をとる日本古来の知恵を取り入れることにより地球環境に配慮した和の住まいの提案である。施主目線でのインテリアデザインのプレゼンテーションが緻密で、提案住宅による生活イメージが沸き実現性が高い。さらに言えばテラス・中庭などをもう少し大きく表現してほしいというプレゼンへの意見もあったが、自然素材による外壁のディテールまで提案している点や、敷地形状に合わせて角度を振り、軒の深いテラスを設けて川風を取り込み、中庭を通じて各室に涼風が行き届くように配慮されたプランが高く評価された。

2等 総合資格学院賞

自然に棲まうということ。

職業能力開発総合大学校 西本 烈弥・西山 依里



【講評】環境に配慮した住宅とは？に対し、自然と共生していた太古の人々の暮らしをヒントに、土の中で自然と共に棲まう住宅の提案である。地中に埋め込んだ大きなチューブに住するというアイデアで、ドライエリアを通じた採光方式等、断面計画が面白いと評価された。谷に向かってチューブを突き出し、そこから景色を眺められるところがユニークである。さらに言えば、図面表現の中にチューブの中から見える外側の景観が欲しかった。近未来の地球では地中に居住するという、学生らしい斬新な発想であり、環境配慮の新しい視点を提示したことが高く評価された作品である。

2等 アイディホーム賞

集落のような“棲み処”

東北文化学園大学 柿崎 可奈子



【講評】仙台広瀬川のほとりに、4人家族に加え祖母、叔母の一族が住む住まいを提案している。敷地中央に配したビオトープを取り囲むように居室を配することが住む人の見守りの役目も果たす。ここに周囲から生き物呼び込むことで、自然環境を感じながら世代間コミュニティも醸成しようとする計画である。さらに言えば、集落としての分棟配置や屋根形状の検討などの工夫や、川面の風を取り入れファサードを工夫することで、一層「集落のような棲み処」になることが期待できる。自然と人の環境に配慮した作者の意図を、その時々光景を想起できるように表現していることが高く評価された。

2等 インフォマティクス賞

modern×自然

東北職業能力開発大学校 佐藤 なみき・岩切 実梨



【講評】円柱という建物形態である。テーマに対する提案を明確に提示している。意匠的な美しさがあり、中心部の居室とそれを取り囲む二重螺旋構造が魅力的である。審査員からは、螺旋階段を平面図の中に書き込んだ表現をするとさらにアピールできる、環境配慮という視点からは水を取り込むような展開ができる、CLTの活用法にもう一工夫するとさらに魅力的になるなど、さらなる展開の拡張性も示唆された。外側のらせん階段がガラス質であり、そこから見える外の広い空間と、内側に住むための空間の取り合いがうまく表現されている点が、学生らしいと高く評価された作品である。

上位作品

葦戸 (よしど) House

滋賀職業能力開発短期大学校 鹿嶋 竜二



柔らかい光をとり入れる空堀のある家

滋賀職業能力開発短期大学校 酒井 創太



New Age HOUSE 新時代の家

東北職業能力開発大学校 高橋 喜人



流れを感じ風と暮らす

東北職業能力開発大学校 阿部 一哉



エコサイト内外の環境と向き合う住宅

職業能力開発総合大学校 武田 泰明



Century Housing

沖縄職業能力開発大学校 浜比嘉 万鈴



上位作品

木陰-木とともに暮らす家-
沖縄職業能力開発大学校 儀間 レイア



涼の家~影が作り出す心地よい空間~
沖縄職業能力開発大学校 屋富祖 健翔



「導」~風の流れる家~
沖縄職業能力開発大学校 宮里 奈央



ミドリノ建築
沖縄職業能力開発大学校 仲本 滉輝



「かわる そしてある」
職業能力開発総合大学校 渡海 峻介

